

科学技術関係主要業務 概要調べ (独立行政法人等関係)

		整理番号	5
1 法人名	科学技術振興機構		
2 業務名	先端計測分析技術・機器開発事業		
3 配分見込額 【百万円】	分類	16年度要求(要望)額	15年度予算額
	科学技術振興費	10,000百万円	0百万円
	その他の一般会計		
	特別会計		
	(合計)	10,000百万円	0百万円
4 「平成16年度の科学技術に関する予算、人材等の資源配分の方針」との対応等	<p>【主たる該当事項】競争</p> <p>【従たる該当事項】産学、ラ(iii)、環(iv)、ナ(iv)、製(iii)</p> <p>競争的研究資金：()</p> <p>経済活性化のための研究開発プロジェクト：()</p>		
5 業務の概要	<p>我が国の先端研究分野における創造的・主体的な研究を推進するとともに、国際的イニチアチブをとった研究開発を進めるため、先端計測分析技術・機器の開発事業を推進する。</p> <p>開発する先端計測分析機器開発については、研究者のニーズを踏まえて設定された領域ごとに、競争的環境下で研究者と機器メーカーが一体となって開発するもの(領域特定型)、領域を予め特定せずに、研究者と機器メーカーの創造的発想による計測分析機器の開発するもの(領域非特定型)を行う。</p> <p>また、併せて、独創的な計測分析技術・手法を開発する研究を推進する。</p>		
6 業務の必要性と国が関与する理由	<p>科学技術を先導していく上で計測分析技術・機器の整備は極めて重要であるが、我が国は、最先端の研究開発用機器・分析技術の多くを海外に依存しており、かかる状況が継続する限り、科学技術分野で真に諸外国を先導する状況は実現され難い。</p> <p>他方、大学等の研究機関における基礎的な研究開発過程において、斬新な計測・分析手法が生まれているにもかかわらず、これらの技術が適切に、実用化・製品化に結びついていないこと、大学等と民間企業との連携が不十分であることも指摘されている。</p> <p>先端計測分析技術・機器は、いわゆるオンリーワン/ナンバーワンの水準を実現しなければ、世界をリードすることにはならず、我が国の産学官の能力を結集して、これを推進していくことが必要である。なお、科学技術基本計画等においてもその重要性が指摘されているところ。</p>		
7 研究計画(目標、期間、投資計画等)	<p>先端計測分析機器開発事業(領域特定型、非特定型)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1段階(要素技術開発)：複数提案を競争的に実施 ・ 第2段階(プロトタイプ段階)：最適計画に重点化 ・ 第3段階(プロトタイプによるデータ取得・発信) <p>(5年程度でプロトタイプ開発を目指す。)</p> <p>先端計測分析技術・手法開発事業</p> <p>独創的な計測分析技術・手法を開発する研究の支援</p>		

8 推進体制	<p>先端計測分析機器開発事業</p> <p>研究者ニーズを踏まえて設定された開発領域について、産学官の能力を結集した開発チームによる提案として公募を行う。第1段階終了時には、中間評価を行うとともに、開発チームの絞込みを行い、選定されたチームに対して集中的に資源配分を行う。(領域特定型)</p> <p>また、開発領域を特定せずに、産学官の能力を結集した開発チームの創造的発想による提案について公募を行う。第1段階終了時には、中間評価を行うとともに、開発チームの絞込みを行う。(領域非特定型)</p> <p>先端計測分析技術・手法開発事業</p> <p>独創的な計測分析技術・手法に関する研究について、公募を行う。</p>
9 他省との連携	-
10 期待される成果、波及効果	<p>研究者ニーズを踏まえた最先端の計測分析機器が産学官の能力を結集して開発されることにより、先導的な研究開発活動の推進、産学官連携モデルの提示、経済の活性化、国際標準となる先端計測機器の創生等の効果が期待できる。</p>
<p>主な成果、目標達成度</p> <p>【継続】</p>	<p>創造的な研究結果の創出</p> <p>研究者ニーズを踏まえた、国際標準となる最先端の技術・機器の創出(5年でプロトタイプ製作)</p>
11 整理・合理化・削減の内容	-
12 事前評価(新規)、中間評価(継続)の有無とその内容	事前評価として外部有識者による事業評価を実施。